さくら通信

平成 23 年 7 月 10 日

Ｎｏ．２５

発行者：NPO 法人　下関深坂さくら友の会
住　所：　下関市安岡町 1-8-3
TEL:083-258-0143　FAX:083-258-5910
Eーメール:　misaka.sakura@arrow.ocn.ne.jp
HP: http://members3.jcom.home.ne.jp/shuzo3/sakura/

５月１５日定例会

この朝は 40 名出席。定期総会を開いて、事業報告、決算報告、そして、計画、予算を審議し、役員を承認した。総会の後は、もみじ谷の手入れを行った。

もみじ谷

もみじ谷では、放置された遊歩道で邪魔になる木を除去し、それを機械でチップ化し、遊歩道に撒いたりしている。ウッドチップを撒いた遊歩道は、ふかふかとして歩きやすい。

ストック

「チップ道ができました。感触を楽しんでください。ただしストックは苦手です。」とあった。ストック？杖のこと？ふかふかで杖の支える力が出ないと言うことかな？

もみじの仕立て

遊歩道には、実生のもみじの若木が沢山ある。切るのには忍びないのであろう、気がつくと、あちことでシュロ縄で引っ張ってあるのを見かけた。

悲しい知らせ

５月２２日（日）会員交流部会長の城戸哲郎氏が亡くなられた。昨年の暮れから入退院を繰り返しておられたが、病気の進行を食い止めることはできなかった。５月２３日通夜、２４日葬儀が営まれた。さくらえのとき、「五分咲きの花にも夫の本復を」と詠まれた夫人の心中を思うと痛ましい。

城戸さんを偲ぶ会

６月２７日、理事、監事１２名で理事会を開いた後、城戸さんを偲んだ。城戸さんは、響灘ＬＣが深坂自然の森に桜を植えるという運動を、初めて企画したときからの中心メンバーの一人である。平成１１年からオーナー桜を植え始めた。１００００本運動と言う物議をかもしたネーミングは城戸さんだった。平成１８年に発足する「下関深坂さくら友の会」の発足にあたっても、勿論中心になって動いた。「さくら友の会」の理事のうち響灘ライオンズクラブ以外のメンバーは、城戸さんの誘いと面接を受けて発起人に加わったものが多い。その後、ＮＰＯ法人の取得にも、中心になって働いた。好きだったのだろう。本業の自動車関係の仕事は何時してるのと冷やかされながら、さくら友の会のことをいつも考えていた。一つステップアップすると、次の課題をもう用意して、さくら友の会の歩みを止めさせなかった。昨年は、指定管理者に応募することを決め、自ら色々調査して、みんなに宿題を出したり、全体に気を配っていた。マネージャの才能が豊かであった。

2011年4月11日 韓国慶州にて 城戸哲郎さん(中央)

会員交流部会では、吉野の桜、韓国の釜山・鎮海・慶州のさくら、熊本の一房ダムなどの計画は素晴らしかったし、定例会の毎回の昼食では、深坂の台所の後方支援を勤めるなど、本当に感謝したいことばかりだ。

城戸さんは、生涯、学習が好きだった。詩吟、市民大学の講座、安岡の郷土史研究会などと、趣味が広かった。歴史にも興味を持ち、戦争史や、明治維新前後の志士たちなどにも関心が高かった。そして、何よりも深坂自然の森、桜、さくら友の会が好きだった。「さくら友の会のメンバーは素晴らしい。こんな人たちはそう居らんよ～。」というのが、城戸さんの口癖だった。みんなが本当に好きだったのだ。みんなと一緒に活動しているのが楽しかったのだ。

城戸さんの桜は、深坂茶屋の上にある。一本はひょろりと背が高いが、本人同様腰が悪いのか、傾いて立っている。もう１本は隣にある。銀婚式の記念樹だ。２本とも奥まった日当たりの悪いところに、遠慮がちに植わっている。いい場所を人に譲り、「おれたちはここでよか。」とでも言いそうだ。優しい男。樹木葬にも関心があった城戸さんだ。お墓の中に居るよりは、よほど、ここの方が気に入るだろう。深坂に行けば、城戸さんの車に出会いそうな気がする。バイパス下の斜面で、森の家の台所で、ピロティーで食事しているとき、その辺に居そうな気がする。城戸さんは「森のレストラン」と言う企画を暖めていた。いつか、実現したいものだ。さよならは言いたくない。会員からも外さないよ。君は永久会員にしとくよ。

下関市の補助金決定

７月５日下関市から通知がありました。２０１１年度は申請通り３０万円で承認されました。西川専務は、年度末にかけて、決算事務、補助金申請、ＮＰＯ法人の変更登記申請など煩雑な事務に追われたうえ、お孫さんの病気で、大阪まで応援に駆けつけねばならなかったりで大変なようでした。

おいでませ山口国体ボランティアの講習会

国体にボランティア奉仕をする人が受けなければならない講習会が６月に３回、下関、菊川、川棚で開かれた。ボランティア志願者は全員受講した。

次回定例会　９月１１日